教職員向け機関紙 Web 版
令和８年２月

虹のかけ橋

兵庫県立但馬やまびこの郷

３０周年記念式典を行いました

令和７年１０月２６日（日）に、「兵庫県立但馬やまびこの郷３０周年事業　やまびこフェスタ」を開催しました。

当日は、地域の皆さまをはじめ、利用者や卒業生、歴代職員の方々など、多くのご来場をいただき、笑顔と感謝にあふれる一日となりました。

はじめに行われた記念式典では、但馬県民局長様をはじめとするご来賓の皆さまより、心温まるご祝辞を賜りました。

続いて、利用者を代表して、保護者の方と卒業生からメッセージが寄せられました。卒業生からは、「不登校だった当時は、周囲の目を気にしてばかりで、本当の自分を出せずに苦しんでいました。そんな中で出会った『やまびこの郷』は、自分の視点で物事を選び、やり遂げる経験を通して、自信と可能性を広げてくれる場所でした。今もなお、学校と子どもたちの間にある隔たりを埋める『サードプレイス』として、やまびこの郷が子どもたちの心に寄り添い続けてくれることを願っています。」という言葉が贈られ、会場は感動に包まれました。

その後の記念イベントでは、マエストロ足立さんによる手作り楽器の音曲演奏が披露され、ユニークな音色と軽快な漫談に、会場からは大きな拍手が送られました。最後には、開所２０周年を記念して作成された、高石ともやさん作詞・作曲の「ここに座ってごらん」を会場のみなさんと一緒に歌い、心をひとつにするひとときとなりました。

但馬やまびこの郷は、これからも子どもたちの心に寄り添いながら歩み続けます。

「不登校に関する研修会」報告

令和６年度の兵庫県内公立小・中学校の不登校児童生徒数は1万5,４５６人で、過去１０年間で初めて前年度を下回りました。しかし、全児童生徒に占める割合は小学校で依然として増加傾向にあり、一人一人の背景や状況に応じた丁寧な支援が、ますます求められています。

こうした現状をふまえ、不登校の子どもたちやその保護者への理解を深め、より具体的な支援につなげることを目的に、「不登校に関する研修会」を全４回にわたり実施しました。本研修では、医療・心理・福祉・教育の４分野から専門の講師をお招きし、それぞれの立場から不登校の背景や支援の在り方について多角的に学ぶ講義と、講義で得た知見をもとに具体的な事例を検討する班別演習を行いました。ここでは、各回の講義内容の一部を紹介します。

講 義 の 概 要

第１回

日時・会場　：　令和７年７月２３日（水）　姫路市市民会館
テ ー マ　：　「その子らしく大人になることを支援する」
講　　師　：　小寺澤　敬子（姫路市総合福祉通園センター・小児科医）

子どもがそれぞれの特性を持ちながら、家庭・学校・地域などの環境との相互作用の中で「その子らしく」育っていくことを支援することが大切である。発達段階に応じた理解と、子ども自身の気づきを促す関わりが重要である。

高学年になると「我慢して合わせている」「みんなと違う」と感じる子が増え、子どもたちは人との距離や自分の感情に気づき始める。「死ぬ」といった言葉も、「そのくらいしんどい」という気持ちの表現であることが多く、大人が子どもの気持ちを理解しようとする姿勢が求められる。一方で、診断名が伝えられても、子ども自身が自分の困り感と結びついていないこともある。自己理解を深めるためには、長所と短所を表裏一体として捉え、自分の状態や気分を把握する力を育むことが必要である。

薬物療法は根本治療ではなく、子どもが不利益を被らないための一手段であり、本人の納得が前提となる。また、カモフラージュやオーバードーズなど、特性を隠す行動や過剰摂取についてもその背景にある心理的要因に注意が必要である。

支援の目標は、目先の問題解決ではなく、子どもが自尊心を持ち、アイデンティティを育みながら、自分らしく社会生活を送れるようになることである。特性と困り感を理解し、相談する力を育てる支援が求められる。

第2回

日時・会場　：　令和７年８月５日（火）　県立兵庫津ミュージアム
テ ー マ　：　「自傷行為・希死念慮の心理及び対処の仕方
～心の窓を通して見える子どものこころ～」
講　　師　：　吉田　圭吾（神戸親和大学・教授）

小中学生の自傷行為は「自分を守るための行動」であり、「生きるための手段」として行われることが多い。小中学生のオーバードーズも同様の動機の場合もある。「ここまで頑張って生きてきたね」という共感的な姿勢で関わることが重要である。また、スクールカウンセラーや保護者との連携も不可欠である。性的逸脱、希死念慮、解離性障害などの問題行動には、安全弁としての意味がある。リストカットは「死にたい」という気持ちの表現であると同時に、「生きようとする努力」の表れでもある。

プレイセラピーや間取り図法、ジェノグラムなどを通じて、子どもの内面に寄り添う支援が効果的である。音楽、小説、漫画、ボードゲームなど、子どもの好きなことを通して「心の窓」を共有することで、自己治癒力が発揮される。家庭訪問時に子どもが好きなキャラクターのＴシャツを着用することで交流が始まり、進路相談につながった事例もある。

近年は、反抗期が見られない子どもも増え、親を困らせたくないという気持ちから、仮面をかぶって従順な態度をとっているうちに、子どもが自分の本心を見失う傾向がある。自傷行為や希死念慮の背景には複雑な心理があることを理解し、自分を傷つけるという表面的な部分にのみ注目せず、「心の窓」を通してその背景にある子どもの心を理解しようとする姿勢が重要である。

第3回

日時・会場　：　令和７年８月８日（金）　県立総合体育館
テ ー マ　：　「不登校児童生徒とその保護者の支援について
～SSWの視点から～」
講　　師　：　馬場　幸子（関西学院大学・教授）

不登校児童生徒とその保護者への支援において、スクールソーシャルワーカー（SSW）の役割は極めて重要である。SSW が対応する案件の多くが不登校に関連し、背景には家庭環境、発達障害、人間関係など複雑で多様な要因がある。

SSW は、児童生徒の置かれた環境への働きかけ、関係機関との連携、学校内の支援体制の構築、保護者や教職員への相談支援などを担い、社会福祉の専門性を活かして問題解決を図る。SSW 導入の背景には、学校・家庭・社会の各レベルでの課題があり、個人と環境の相互作用に着目するエコロジカルな視点が求められる。支援は、情報収集からケース会議、

支援実施、モニタリングまでのプロセスを経て行われ、児童生徒の声を中心に据えた個別対応が重要である。不登校児童生徒の多くは「豊かに育つ権利」が奪われた状態にあるため、SSW は権利擁護とエンパワメントを促進し、社会的包摂と多様性の尊重を支援の柱とする。

支援の際には、児童生徒の思いに耳を傾け、「子どもを変える」のではなく「大人がどう変われるか」という大人の発想の転換が必要になる。そして、SSW との協働により、不登校対策プランの策定や校内支援チームへの参加など、戦略的な支援体制の構築が可能となる。

第4回

日時・会場　：　令和７年１０月２０日（月）　県立但馬やまびこの郷

テ ー マ　：　「生徒指導提要の考え方に即した学級づくり
～不登校未然防止のために～」

講　　師　：　水野　治久（大阪教育大学・教授）

次期学習指導要領に向けた論点整理では「多様性の包摂」が新たに加わり、教師が学級経営を通じて多様な子どもを受け入れ、意欲と可能性を引き出す教育の実現が求められている。現行の生徒指導提要にある「重層的支援構造」を踏まえ、日常の些細な行動から問題を予測し、予防的に対応する「発達支持的生徒指導」の視点が重要である。

学級経営には明確な方法論がなく、教師は自身のリーダーシップスタイルを把握することが求められる。PM 理論に基づく指導行動の分析から、コロナ禍以降、個別支援的な傾向が強まっていることが示唆される。学級の規律重視（P 型）と関係重視（M 型）のバランスを考慮し、子どもが援助を求めやすい環境づくりが必要である。

また、問題行動や不登校は個人の問題ではなく、家族や学級などの集団の影響で生じる。学級集団は段階的に発達する。初期の「混沌・緊張期」では集団づくりを焦らず、子どもを認め、褒める個別支援を通して一人一人と関係を築くことが重要である。この時期の丁寧な関わりがいじめや不登校の予防につながる。さらに、解決志向アプローチを取り入れ、子どもの強みに注目し、保護者との協働を通じて支援を進めることが効果的である。問題の背景には個人ではなく集団の影響があることを理解し、安全・安心な学級環境を整備することが不登校の未然防止に直結する。

第１回から第４回の講義を通して、子どもの特性や発達段階に応じた理解、子どもの背景を踏まえた心の内面への寄り添い方、そして家庭や学校、地域と連携したチームによる支援の重要性について多角的に学ぶことができました。支援者として、子どもが自分らしく成長できるよう、安全・安心な学級や居場所づくり、自己理解を促す関わり方、自尊感情や社会的包摂を支える視点を大切さにしていきましょう。

当所主催の２つの研修会を紹介します
～子どもたちへの支援について一緒に考えませんか～

※詳細については、来年度４月に市町組合教育委員会を通じて配布される実施要項をご確認ください。

どちらも、中堅教諭等資質向上研修として受講が可能です。

不登校に関する研修会

【会場】県内４会場（予定）

【内容】医療・心理・福祉・教育の４分野から専門の講師を招いての講義と、事例検討やグループ協議などの班別演習による研修

参加者の声

- 講義では、専門的な理論と事例の両面からお話しいただき、非常に分かりやすかった。
- 多様な校種・立場の方々とのグループ協議を通して、さまざまな視点から考えることができた。

不登校の子どもに学ぶ実践研修会

【会場】県立但馬やまびこの郷

【内容】実際の活動に参加し、当所を利用している子どもたちとの関わりを通して、支援の在り方を学ぶ実践的研修

参加者の声

- 子どもたちが安心してのびのびと活動している様子を見て、学校でも参考にしたいヒントが得られた。
- 活動に参加しにくい子どもへのスタッフの声かけなど、子どもへの関わり方について学ぶことができた。

兵庫県立但馬やまびこの郷機関紙「虹のかけ橋」Web 版　　令和８年２月
発行／兵庫県立但馬やまびこの郷
〒669-5135　兵庫県朝来市山東町森字向山 3045-101
TEL 079-676-4724　FAX 079-676-4721　URL https://www.t-yamabiko.asago.hyogo.jp/